

令和2年10月9日

東京都千代田区四番町5番地3

科学技術振興機構（JST）

Tel : 03-5214-8404（広報課）

URL <https://www.jst.go.jp>

新型コロナウイルスを契機に変化する「Life」を考える

「サイエンスアゴラ2020」をオンライン開催

JST（理事長 濱口 道成）は「サイエンスアゴラ2020」を令和2年11月15日（日）から22日（日）の8日間、オンラインで開催します。さらに、13日（金）と14日（土）の2日間は「プレアゴラ」として関連企画を実施します。

<テーマ：Life>

新型コロナウイルス感染症は、私たちの「Life（生命、生活、人生）」を瞬く間に危機へ直面させるとともに、生活基盤や社会システムの脆弱性を露呈させました。急速に社会やライフスタイルの変容が進みつつある中、未来社会像を描き、明るい未来社会を支えるために求められる科学技術イノベーションについて、議論する場が必要です。しかし、科学と社会の関わりを考える機会は多くありません。サイエンスアゴラ2020では、人々の「Life」、すなわち、私たちの生命や生活、人としての在り方と、科学技術の接点について考えを深める場を提供します。

<コロナ禍を踏まえた未来社会像、Life、Well-beingを探る>

開幕セッションでは、コロナ禍を踏まえた目指すべき未来社会像について、日本電信電話（NTT）取締役会長の篠原 弘道氏、IBM T. J. ワトソン研究所フェローの浅川 智恵子氏ら有識者らとともに、デジタルトランスフォーメーションやインクルーシブの観点など、さまざまな角度から考えます。



篠原 弘道氏 浅川 智恵子氏

<初のオンライン開催はライブ配信とオンデマンド配信で>

公募により集められた約100件におよぶ企画を通じ、多様なステークホルダーと対話しながら「共」に新たな価値を「創」造する、「共創」を目指します。開幕と同時に閲覧可能なオンデマンド配信企画はもちろん、ライブ配信企画も後日アーカイブで視聴できます。従来の開幕セレモニーに代えて、文部科学省など関係省庁や経済界からは、未来社会に対するコメントや動画が寄せられます。オンライン会場となる特設サイト全体を通じ、これからの日本が目指す「Life」を考えられる構成を目指しています。

<科学実験から社会への提言まで、幅広い興味に応える企画が多数>

謎解き、実験施設のバーチャルツアー、オンライン科学実験など、家族で科学に親しめる企画も多数ご用意。宇宙に関するトークショーや、ビッグデータと医療、震災と海洋問題、量子コンピューター、生徒の文理選択や意思決定など、硬軟織り交ぜた幅広い企画が満載です。また、約100件もの企画から自分の好みに合った企画を探す際には、AIに

よるオススメ企画の案内機能を活用ください。

<社会課題を、研究者と当事者、次世代人材と一緒に議論>

地域と科学技術に焦点を当てた「STI for SDGs」アワードの表彰式、JST 低炭素社会戦略センターが進める低炭素社会へのアプローチや、日本の各地域で社会課題を抱える当事者と大学との共創によって問題を解決する取り組みなども、各拠点からの参加で実施。遠方や海外からなど、オンライン開催ならではのメリットを生かし、参加者と一緒に議論に参加できます。そのほか、若手研究者や大学生、中高生など、次世代人材を中心に据えた企画を実施します。女性研究者の活躍を推進するため創設された「輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）」の表彰式や、中高生による企画実施を予定しています。

<キービジュアルに“NextSignage”を起用>

今年、標識（サイネージ）というインターフェースを通して未来を考えるアート作品「NextSignage」をキービジュアルに起用しました。今は実現していない技術が当たり前存在する情景や、その時に発生する感情に思いを巡らせることで、論理では説明できない発見が得られることを狙いとしています。この考え方を応用し、将来必要になる標識やマークを通して未来の風景を想像するコンテスト「未来のマークをつくろう」を実施します。



NextSignage

<プレアゴラでは2つの国際大会を誘致、サイエンスアゴラ本体の見どころ紹介も>

プレアゴラ期間中には、障がいのある人達が先端技術の力を借りて、日常で必要な動作を競う国際競技大会「サイバスロン」の東京大会を、スイス大使館との連携により実施します。また、1993年から若い世代の能力育成のために開催されているIVRCを、今年はInterverse Virtual Reality Challengeとして決勝大会を実施します。また、15日からの見どころも紹介します。

<サイエンスアゴラ2020開催概要>

日時：11月15日（日）から22日（日）

※13日（金）・14日（土）は、プレアゴラとして、スイス大使館とJSTが共催する国際競技大会サイバスロン（東京会場）のほか、IVRC決勝大会、サイエンスアゴラ前夜祭等を実施予定。詳細は順次サイエンスアゴラ2020特設サイトで公開。

【特設サイトURL】<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2020>

<添付資料>

別紙：サイエンスアゴラ2020について

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構「科学と社会」推進部

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

坂内 千浩（バンナイ チヒロ）

Tel：03-5214-7493

E-mail：agora[at]jst.go.jp

サイエンスアゴラ2020について

「サイエンスアゴラ」は、科学と社会をつなぐ日本最大級のオープンフォーラムです。あらゆる立場の人たち（市民、研究者、専門家、メディア、産業界、政策決定者など）が対話、協働し、それを政策形成や知識創造へ結びつける「共創」のプラットフォーム構築を推進しています。

テーマ「Life」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、社会に大きな混乱と変化を引き起こしました。当たり前になるにはもう少し時間がかかると思われたテレワークやオンライン授業なども、「新しい生活様式」の提言により、実施されるようになっていきます。未来が近付いたという人もいれば、理想から遠のいたと考える人もいるかもしれません。便利さを享受できる人とできない人がいるという現実も浮き彫りになりました。

昨年サイエンスアゴラでは「Human in the New Age—どんな未来を生きていく?—」をテーマに、科学技術が発展する未来の生活を具体的に想像し、さまざまな分野における課題解決の方法を検討しています。2020年は、社会が変わっても、変わるもの、変わらないもの、変えたくないものを、それぞれの立場で考え、昨年の議論を引き継ぎながら、人々の「Life」、私たちの生命や生活、人としての在り方と、科学技術の接点についての考えを深めます。

新型コロナウイルス以外にも、たくさんの想定外因子によって社会は変わります。自然との関わり方や、家族や友人との距離感、健康や安全であることの意味合いや、社会のルールも変わっていきます。サイエンスアゴラ2020を通じて、変化したLife、これからのLife、未来のLife、そして私たちのライフプランを考えてみてください。

＜サイエンスアゴラ2020 開催概要＞

日 時： 11月15日（日）から22日（日）

※11月13日（金）、14日（土）は「プレアゴラ」として開催

開催形態： オンライン開催

主 催： 科学技術振興機構（JST）

参加費： 聴講無料（一部、材料など参加者にて用意いただく企画があります。通信料は聴講者のご負担となります。）

参加方法： オンデマンド配信と事前登録制（事前登録のない方はYouTubeでのライブ配信ならびにアーカイブのオンデマンド配信をご覧ください。）

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2020>

協 賛： 旭化成株式会社、エルゼビア・ジャパン株式会社、株式会社学研ホールディングス、日本アイ・ビー・エム株式会社、日本電気株式会社、日本電信電話株式会社（五十音順）

特別協力： スイス大使館

協 力： 株式会社東京レポートセンター、株式会社フジテレビジョン、国立大学法人 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab、Wiley、BASE Q

後 援： 内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省、日本学術会議（予定）、一般社団法人 日本経済団体連合会、一般社団法人 国立大学協会、日本私立大学団体連合会、国立研究開発法人 理化学研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、ジャパンSDGsアクション推進協議会、公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会（予定）（2020年10月9日現在）

「サイエンスアゴラ2020」の多様な企画の一部を紹介します（いずれの企画も、企画タイトル、登壇者などが変更になる場合があります）。

開幕セッション

新型コロナウイルス感染症は、私たちの「Life（生命、生活、人生）」を瞬く間に危機へ直面させるとともに、生活基盤や社会システムの脆弱性を露呈させました。急速に社会やライフスタイルの変容が進みつつある中、私たちはどのような未来社会像を描くべきか。明るい未来社会を支えるために求められる科学技術イノベーションは何か。Science for global well-being、No one left behind、Inclusivenessの観点を踏まえて、有識者の皆さんとともに議論します。

■日時：11月15日（日）10:00-12:00

■形式：Zoom ウェビナー（事前登録制、YouTube での同時配信あり）

■登壇者（敬称略・五十音順）：

浅川 智恵子（IBM T. J. ワトソン研究所 フェロー）

篠原 弘道（日本電信電話（NTT） 取締役会長、総合科学技術・イノベーション会議議員）

タカハシ ショウコ ※ファシリテーター（インキュビオンCEO、サイエンスアゴラ2020推進委員）

富山 和彦（経営共創基盤（IGPI） IGPIグループ会長、JST ACCEL研究開発運営委員）

濱口 道成（JST 理事長）

広井 良典（日立京大ラボ、京都大学 ころの未来研究センター 教授）



浅川 智恵子 氏

篠原 弘道 氏

タカハシ ショウコ 氏

富山 和彦 氏

濱口 道成 氏

広井 良典 氏

サイエンスアゴラ2020推進委員会※) が選んだ注目企画

アゴラ市民会議「人と人の間はテクノロジーでつなげるか ～ポストコロナ社会における人間らしいLifeのゆくえ」

サイエンスアゴラ2020は全体テーマとして「Life」を掲げ、コロナ禍によって変化を余儀なくされた私たちのLife（＝生活や生命、人としての在り方）と科学技術の接点について考えることを提案しています。イベントではこの全体テーマを受けて、コロナをめぐる社会状況の中でも特に、人との直接の接触を回避しようとする新たな生活様式へのシフトに注目します。現在、接触から非接触への流れの中で、DX（デジタル・トランスフォーメーション）はますますニーズが高まっており、これからのLife（生活）の在り方を大きく変える可能性があります。一方で、ヒトとしての人間は長い人類史のなかで移動と接触を繰り返しながらゲノムを混交させ生命をつないできました。Life（生命）の観点からは、生身（なまみ）の人と人が交わることの意味について、短期的なニーズとは別の示唆が浮かび上がってくるでしょう。このように人の生活とヒトの生命の両方をまたぎながら、これからどのように人は人と関わり、体験を共有し、社会や文化を次世代へとつないでいけるかを考えていきます。私たちが望む「人間らしいLife（生活／生命）とは何か」という問いを基底に置きながら、今後のイノベーションの方向性を視聴者の皆さんとともに議論します。セッション中、皆さんからのコメントを歓迎します。

■日時：11月15日（日）16:00-18:00

■主催：科学技術振興機構「科学と社会」推進部、日本科学未来館

対話×謎解きゲーム「エネルギー危機からの脱出」

謎解きゲーム形式の体験型ワークショップをオンライン化したものです。エネルギー政策に関わる市民会議のメンバーとして、ほかの参加者と協力しながら謎を解く中で、エネルギー問題の持つさまざまな側面と向き合います。また、エネルギー政策に関する対話パートでは、思わぬ価値観の違いに気付くこともあるかもしれません。皆さんの選択は、果たしてどのような結末をもたらすことになるのでしょうか。

■日時：11月21日（土）10:00-12:00

■主催：北海道大学 C o S T E P 1 5 期謎解き推進委員会

J T - 6 0 S A バーチャルツアー～世界最大の超伝導核融合実験装置を見にいこう！～

2020年3月に完成した世界最大の超伝導核融合実験装置「JT-60SA」を見に行こう！茨城県那珂市にあるJT-60SAのバーチャルツアーと核融合入門講座の2本立てでお送りします。年内に本格稼働を目指して試験運転中のJT-60SA施設の内部を研究者の解説を交えながらお見せします。核融合入門講座では、核融合の反応の仕組みやJT-60SAなどの装置について解説します。質問も大歓迎です。

■日時：11月21日（土）10:00-11:30

■主催：量子科学技術研究開発機構

“エコヘルス”から考えよう。新しい生活様式。

ウィズ・コロナの時代、私たちはどのように「新しい生活様式」を考えるべきでしょうか。このトークイベントでは、「人間の健康は生態系の影響を受けている」と考える「エコヘルス」という研究と、研究者と社会の人々が共に話し合い、課題解決を目指す超学際（Transdisciplinary、TD）研究という2つの観点をベースに、小説家の平野 啓一郎さんをお招きして、参加者の皆さんと一緒に新型コロナウイルス感染症の今とこれからの読み解き、考えます。

■日時：11月22日（日）13:00-14:30

■主催：総合地球環境学研究所（地球研）

障害を持つ学生にひらかれた科学

障害のある学生が初等中等教育の段階で多くの困難に直面し、大学への進学をあきらめることは少なくありません。また、大学進学が実現しても、STEM分野を志していた学生が、物理的環境や文化的環境における障壁に直面し、不本意な形で他分野に進路変更する例も後を絶ちません。本ウェビナーでは、障害やバリアフリーの専門家たちが、障害のある学生でもSTEM分野に進み、充実した学生生活を送れるよう、大学が行うべき環境整備や支援について提案します。

■日時：11月21日（土）15:30-17:00

■主催：東京大学

研究者と語ろう～新型コロナウイルス（COVID-19）免疫学的視点×ウイルス学的視点～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は人類の生活を一変させました。「3密」、「ソーシャルディスタンス」、「PCR検査」といった言葉も身近なものになりましたが、私たちは日々ネットなどに流れる膨大な情報から正しいものを選択できているのでしょうか？今回のサイエンスアゴラでは免疫学と感染症学の専門家との対話を通して、感染症とともに生きるこれからの社会の在り方を皆さんと一緒に議論し、考える機会になればと思います。

■日時：11月21日（土）18:00-19:30

■主催：大阪大学 免疫学フロンティア研究センター、微生物病研究所

徹底討論！日本の有人宇宙開発 宇宙は人が行くべきか

日本の宇宙開発といえば、これまで「はやぶさ」をはじめとする無人宇宙開発がメインでした。しかし、昨年政府はアメリカの有人月探査計画「アルテミス計画」に参加すると発表し、2020年代にも日本人が月面に立つ可能性が出てきています。宇宙開発は有人でより積極的に進めるべきか、無人で続けるべきか。とかく「夢」や「ロマン」という言葉でごまかされがちな有人宇宙開発について、いろいろな側面から徹底的に議論します。

■日時：11月15日（日）13:00-14:30

■主催：日本宇宙少年団さくら分団

「究極」のイチゴ、量子科学技術でお届けします

人々が生命を実感する脈動のように、植物にも人の循環器と同様の「運ぶ力」が備わっています。肉眼では視えない様子を観察可能にしたのが、量子科学を駆使した「みる技術」のRIイメージングです。さまざまな元素が各器官に運ばれる仕組みを理解すれば、野菜や果物の味や香り、ミネラルの配合などを操る未来を実現できる。「みる技術」が可視化したイチゴの「運ぶ力」という具体例を通じて、「量子科学技術でつくる私たちの未来」を考えます。

■日時：11月19日（木）18:15-19:45

■主催：量子科学技術研究開発機構

温かさってなに？～機械と人の温かさを考えるオンラインワークショップ～

そもそも人の温かさとは何だろう。人と機械の温かさを伝える方法として、①人の温かさを人が伝える、②機械の温かさを人が伝える、③機械の温かさを機械が伝える、④人の温かさを機械が伝えるの4つがある。これらを踏まえ、機械の温かさについて考えることで人の温かさについて考え直す。そして人の温かさについて共通認識を持つことでこれからの機械に応用していきたい。

■日時：11月16日（月）18:00-19:30

■主催：日本大学 文理学部 情報科学科 大澤研究室、科学技術振興機構 日本科学未来館

オンラインで標本に触れる！？～「感覚の転送」技術でできること～

「カワセミの嘴⇒新幹線の騒音軽減」「蚊の針⇒痛くない注射針」など、生物の身体的特徴は、私たちの生活をより良くするヒントを与えてくれています。バイオミメティクスと呼ばれるこの技術の第一歩は、標本などを通じて生物の特徴を知ることでした。コロナ禍で博物館を訪れる機会が減った今、オンライン上でどのように生物の特徴を体感することができるのか。「感覚の転送」技術などを使って、皆さんと一緒に考えたいと思います。

■日時：11月22日（日）15:30-17:00

■主催：北海道大学 C o S T E P 1 6 期有志の会

飛ぶ吹きゴマについて

私たちが設計した2枚～6枚羽根の息の力で回して飛び上がらせる「飛ぶ吹きゴマ」の作り方やまわしかた、飛ばし方について説明します。また、どうすればより高く飛び上がらせることができるか考えます。

■日時：11月22日（日）14:40-15:20

■主催：飛ぶ吹きゴマ研究班（岡山県立倉敷天城高校2年）

※）サイエンスアゴラ2020推進委員会（委員は五十音順）

委員長：駒井 章治 東京国際工科専門職大学 工科学部 情報工学科 教授

委員：荒川 敦史 科学技術振興機構 「科学と社会」推進部 部長

委員：齋藤 敦子 一般社団法人 Future Center Alliance Japan (FCAJ) 理事兼ディレクター

- 委員：サリー楓 株式会社日建設計NAD室 コンサルタント
委員：タカハシ ショウコ インキュビオン株式会社 CEO
委員：根本 かおり 株式会社博報堂 ブランド・イノベーションデザイン局
ストラテジックプランニングディレクター
委員：廣常 啓一 新産業文化創出研究所 所長
委員：南澤 孝太 慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 教授
委員：宮野 公樹 京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授
委員：森田 由子 科学技術振興機構 日本科学未来館 科学コミュニケーション専門主任
-

サイエンスアゴラ JST 事務局が選ぶおすすめ企画

あなたにぴったりの企画を AI が見つけます！ サイエンスアゴラ 2020 ウェブツアー（仮）

- 日時：11月13日（金）～22日（日）※URLは後日発表
- 主催：産業技術総合研究所 人工知能技術コンソーシアム AI サービスシステムワーキンググループ

弦巻楽団×北大 CoSTEP 公演 インヴィジブル・タッチ

- 日時：11月15日（日）17:30-19:30
- 主催：北海道大学 CoSTEP、弦巻楽団

ウソを作って見破ろう！ 情報社会における科学を考える

- 日時：11月15日（日）17:30-19:30
 - 主催：うたたね
-

プレアゴラ期間中（13日（金）・14日（土））の関連企画実施

国際競技大会サイバスロン（東京会場）

サイバスロンは、障がいのある人達が先端技術の力を借りて、日常で必要な動作を競う国際競技大会であると同時に、彼らと技術者と社会との対話を促すことを目指す、スイス発の取り組みです。今秋、初めてオンラインで開催される大会では23カ国から70チームが、それぞれの拠点にコースを設けて競い、ライブ配信します。東京会場（未来館）には、日本から出場する5チームから関東圏の3チームが参戦します。

- 日時：世界予選 11月13日（金） / 世界大会決勝戦 11月14日（土）
 - 主催：スイス大使館科学技術部、科学技術振興機構「科学と社会」推進部
-

IVRC LEAP STAGE（決勝大会）・表彰式

VRを取り巻く環境が大きく変化した2020年、1993年の第1回から28年目を迎えるIVRCは、次の時代のVRコミュニティを生み出すため、Interverse Virtual Reality Challengeへと大きく変わります。私たちにとってのリアルとは、もはや物理世界（universe）と情報世界（metaverse）という対比を超えて、あらゆる世界が融合（interverse）した概念となっています。このような時代にVRはどう進化していくのか？旧来のVRの概念を超えたチャレンジを募集し1つの視点で優劣を競うContestではなく、さまざまな視点からのChallengeを評価する場を創ります。LEAP STAGEでは、SEED STAGEから進んだ10チームがプレゼンテーションを行います。

■日時： LEAP STAGE 11月14日（土）13:00-15:00 / 表彰式 11月14日（土）17:00-18:00
■主催：日本バーチャルリアリティ学会 IVRC 実行委員会

「未来のマークをつくろう」コンテスト表彰式

未来社会に新しい技術が広まったとき、その技術を認識するための標識やマークが必要になります。あなたが注目する技術は、どんなものですか。それによって社会はどう変わるでしょうか。新しいアイコンを通じて、未来の風景を想像してみましょう。

2020年11月1日（日）まで、「未来のマークをつくろう」コンテストの作品を募集します。特に優秀な3作品は、表彰式の後、サイエンスアゴラの会期中、日本科学未来館で展示されます。

■日時： 11月13日（金）時間未定

■主催：JSTサイエンスアゴラ事務局

詳細はサイエンスアゴラ公式サイト (<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>) でご確認ください（中学、高校などの授業でも活用いただけるよう、レクチャービデオ（チュートリアル動画）と資料を用意しています）。

サイエンスアゴラ2020前夜祭

サイエンスアゴラ2020の見どころを紹介します。

■日時： 11月14日（金）時間未定

■主催：JSTサイエンスアゴラ事務局

JST各部署からの出展企画（上記紹介以外）

グローバルサイエンスキャンパス全国受講生研究発表会

■日時： 11月15日（日）10:00-16:30

■主催：科学技術振興機構 理数学習推進部

第2回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）表彰式&トークセッション

■日時： 11月15日（日）13:00-15:00

■主催：科学技術振興機構

サイバスロンとパラスポーツから探る、“障害”がない社会のつくりかた

■日時： 11月15日（日）14:00-16:30

（事前予約制で日本科学未来館での観覧を受付、ライブ配信は未定）

■主催：日本科学未来館、スイス大使館

ポストパンデミックが加速する新たな社会～Society 5.0の観点から

■日時： 11月16日（月）16:00-17:30

■主催：科学技術振興機構

地球の生命に光を当て、そして守る

■日時： 11月17日（火）16:00-17:30

■主催：ナショナルジオグラフィック協会、科学技術振興機構

ポストコロナ時代の研究活動における情報共有～成果発表・学会～

■日時：11月17日（火）18:30-20:00

■主催：科学技術振興機構 情報基盤事業部

人間と機械の共生が創る新しい生活様式

■日時：11月18日（水）13:00-14:30

■主催：科学技術振興機構 戦略研究推進部

強靱で持続可能な社会に向けたディープ・テック

■日時：11月18日（水）14:00-15:30

■主催：エスジーイノベート、科学技術振興機構シンガポール事務所

STI for SDGs～地域の社会課題の解決を目指して～

■日時：11月19日（木）13:00-15:00

■主催：科学技術振興機構 「科学と社会」推進部

危機対応における科学コミュニティの役割とは～COVID-19パンデミックの教訓から～

■日時：11月20日（金）17:30-19:00

■主催：科学技術振興機構

LCSオンラインワークショップ「描こう明るく豊かなゼロエミッション社会」

■日時：11月21日（土）15:30-17:30

■主催：科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター（LCS）

「マルチ予防」と「とも育て」ってなんだろう？～脳科学から育むミライ

■日時：11月21日（土）18:00-19:30

■主催：科学技術振興機構 社会技術研究開発センター（RISTEX）

共生するならどっち？～微生物か、ロボットか～

■日時：11月22日（日）17:30-19:00

■主催：科学技術振興機構 研究プロジェクト推進部（ERATO）

科学オリンピックで未来を創ろう

■オンデマンド視聴

■主催：科学技術振興機構、日本科学オリンピック委員会

ジュニアドクター育成塾トークセッション

■オンデマンド視聴

■主催：科学技術振興機構 理数学習推進部 ジュニアドクター育成塾事務局

京大100人論文オンラインバージョン特別編「全大学100人論文～研究者魂の研鑽～」

■オンデマンド視聴

■主催：京都大学 学際融合教育研究推進センター、JST サイエンスアゴラ事務局

以上